



# 海老沼小だより

～かしこく やさしく たくましく～

2月号

平成29年1月31日

さいたま市立海老沼小学校

## 魅力と特色ある教育活動の展開 ～児童を主体に～

校長 原田 守 康

ここ最近、寒さの中にも梅の花が咲き始め、春のいづきを感じさせてくれます。

本校では、1月16日をエビロジデーとして、児童会主催により全校で環境に関する体験学習を実施しました。

エビロジとは、海老沼小のエビとエコロジーのロジを組み合わせ、エビロジの名称を付け、創意工夫を凝らした環境に関する体験学習で、本校の環境教育（昨年度・一昨年度 市教委より研究指定）の取組の1つです。

本校の環境教育は、大きく2つの視点があります。

1つは、各教科の中の環境に関わる学習を関連付け、学習の場を工夫することです。

具体的には、環境に関わる話し合い活動の充実・学習カードの工夫と活用・校内掲示の工夫等です。

もう1つは、児童の環境への関心を高める体験活動・取組の工夫です。

具体的には、エビロジ活動・ビオトープの整備・エコマスター検定の実施・環境だよりの作成・世界の貧困地域へワクチンを送るためのペットボトルキャップの回収等です。

この体験活動の1つがエビロジ活動となっています。エビロジ活動は、9つの委員会（5・6年所属）が環境に関わる取組を行い、1～4年生までの児童が希望した委員会に入って5・6年生の指導のもとで活動します。

今回を例にとると、給食委員会では、給食で食べたみかんの皮で洗剤を作る活動を行い、新たな知識を学びます。図書委員会では、高学年が他学年の児童に環境に関する本の読み聞かせやそれに関するクイズを出し、環境への意識を高めます。その他、環境委員会ではテトラパックやペットボトルを使つてのエコ工作、栽培委員会では落ち葉を使つたしおり作り、飼育委員会では肥料作り・・・等です。

児童のアンケート結果を見ると、節電・節水などの意識が高いほか、「物をなるべく長く使ってられるように大切に使う」「買い物に行くときはエコバックを持って行く」「お風呂に冷めないうちに入る」「紙をリサイクルボックスに入れる」等、自分にできる活動に取り組もうとしている児童が多くみられるようになっていきます。今後、身近な活動から取り組む姿勢を育成し、徐々にできる範囲を広げていければと思います。

本校は、埼玉県環境部主催の環境保全や環境学習に取り組む個人や団体に贈られる「彩の国埼玉環境大賞」に応募した結果、奨励賞受賞が決まり、2月6日に知事会館で表彰されます。

本年度は、その他に特色ある教育として、NIEの活用（教育に新聞を）、辞書引き学習（主に4学年）、国語力向上（国語・特別活動）、小・中一貫教育（主に6学年）、地域の伝統文化を学ぶ（中山神社鎮火祭の見学3学年、江戸木目込人形制作6学年）、世界盆栽大会に向けての盆栽の制作と栽培（5学年）等に取り組まれました。特色ある教育を通して子どもたちをバランスよく成長させていきたいと思っています。



NIE(教育に新聞を)の取組